



2015年7月21日

14番 森 良雄

第一委員会行政視察報告書

		主な目的
7月14日	糸魚川市役所、フォッサマグナミュージアム	糸魚川ジオパーク
15日	安曇野市役所	都市計画と線引き
16日	長野市役所	地域おこし協力隊

糸魚川市のジオパークの取り組みとフォッサマグナミュージアム

糸魚川市のジオパークへの取り組みは国内の他のジオパークの中でも特に熱心だとは思っていましたが、その配置人員と新たにフォッサマグナミュージアムの大掛かりなリニューアルには驚かされました。

その見識とジオパークを町おこしの柱にそえた意気込みを感じました。

配置した人員はJGN（日本ジオパークネットワーク）の中でも屈指のものと思われます。また、JGNの中心的な活動をしていると思います。

人員

科学スタッフ	5名	職員
技術スタッフ	1	契約職員
行政スタッフ	7	職員
行政スタッフ	1	契約職員

財政の投入状況

フォッサマグナミュージアムは数年前に見たときとは一新されていました。

投入した財政は20億と聞きました。

糸魚川市のジオパークにかけた意気込みを感じました。

展示も活動状況も世界ジオパーク恥じないものと思います。

世界ジオパークとはかくあるべしともおもいました。

伊豆半島ジオパーク構想が世界ジオパークを目指すには遠い感じもしました。

糸魚川ジオパークは明確に誘客を前面に添えたものでした。

安曇野市の都市計画「線引き」の見直し

線引きの見直しは合併したい5町村の都市計画の内容を同じようにしようとするものです。

同一のレベルにしようとするものです。

伊豆市のような企業誘致などを目的としたものではありません。

したがって、自然保護や環境保護はより厳しくなったものもあると感じられました。乱開発などは起こらないとおもいます。

自然破壊や農地の虫食い開発は起こらないなと感じました。

要は線引きの見直しと言うのは合併した5町村のレベルを同一のものにしたのです。ゆるい規制の町村は厳しくなったと見るべきでしょう。

長野市の地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の取り組みは地域を巻き込んだものです。

何をするのか、誰がするのか、地域を主体にした取り組みです。

その結果は本当に地域が必要とする者を、地域が必要とする問題に地域が主体となって対処しようとしています。

住民も長野市も必至になって町おこしに取り組んでいると感じました。

協力隊員の人選の熱心さが伝わってきました。

結果が楽しみです。3～4年後に結果を見てみたいと感じました。

きっと、成功するでしょう。

以上